

病害虫発生予察特殊報 第4号

作物名：レタス

病名：レタス黒根病(仮称)

病原菌：*Thielaviopsis basicola* (Berkeley & Broome) Ferraris

1 発生確認経過

平成28年頃から県東部のレタスほ場において、レタス根腐病とは異なる原因による萎凋症状等の障害が発生した。長野県野菜花き試験場佐久支場において、原因究明に取り組んだところ、本県未確認の土壤病害の発生が疑われた。このため、根部から分離された糸状菌をレタスに接種した結果、同様の病徴が再現され、同じ菌が再分離できたことから、土壤病害であることが明らかとなった。分離菌は千葉大学において、平成30年9月に*Thielaviopsis basicola*であることが確認された。

本病は、群馬県において国内初確認され本年5月に特殊報が出された。その後、静岡県からも本年11月に特殊報が出されている。

2 病徴及び被害

- (1) 地上部では外葉の黄化、生育遅延などが認められ、症状が進行すると結球葉が萎凋し、小玉化する(図1)。地上部の病徴は認められない場合もある。
- (2) 軽症株では根の一部が帯状にわずかに褐変、隆起し、表面に亀裂が生じる(図2)。中～重症株では帯状の褐変が明瞭になり(図3)、根全体が黒変する(図4)。根部の症状は表面に限られる場合が多く、主根内部に褐変が観察されることはまれである。
- (3) 根腐病等の土壤病害を併発し、重症化することがある。

3 発生生態

- (1) 病原菌は、糸状菌の一種で、土壤伝染する。
- (2) 病原菌は、罹病部に分生子や厚膜胞子(図5)を形成し、罹病残渣とともに土壤中に残留し伝染源となる。なお、厚膜胞子は土壤中に長期間生存が可能である。
- (3) 本病に対しては、品種間で罹病性に差異があることが示唆されている。
- (4) 本病原菌はこれまでに、たばこ、にんじん、スマレ類、ゼラニウム、オクラなどの病原として報告されている。
- (5) 分離菌をキャベツ、はくさい、ブロッコリーに接種したが、これらへの病原性は認められなかった。

4 防除対策

- (1) 現時点(平成30年11月15日)では、本病に対する登録薬剤はない。
- (2) 連作により土壤中の病原菌の密度が高まるため、発生ほ場では連作を避ける。
- (3) 本病の発生が確認されたほ場での作業終了時には、トラクター等の農機具類、長靴など土壤が付着している可能性のあるものについては、ていねいに洗浄して、他のほ場に拡散しないようにする。また、明渠を設置するなどして雨による土壤の流出を防止する。



図1 地上部症状



図2 根部病徴（軽症株）



図3 細根の病徴（中～重症株）



図4 根部の病徴（中～重症株）



図5 菌糸の形態（厚膜孢子）

(図はすべて野菜花き試験場佐久支場 提供)

連絡先 長野県病害虫防除所
TEL : 026-248-6471 (直通)
FAX : 026-248-6473
E-mail : bojo@pref.nagano.lg.jp